

令和5年度 第2回岡山県総合教育会議

日 時：令和6(2024)年1月19日(金)13:10～13:50

場 所：県庁3階 第1会議室

< 次 第 >

1 開 会

2 議 事

「長期欠席・不登校対策」

3 閉 会

令和5年度 第2回岡山県総合教育会議 出席者名簿

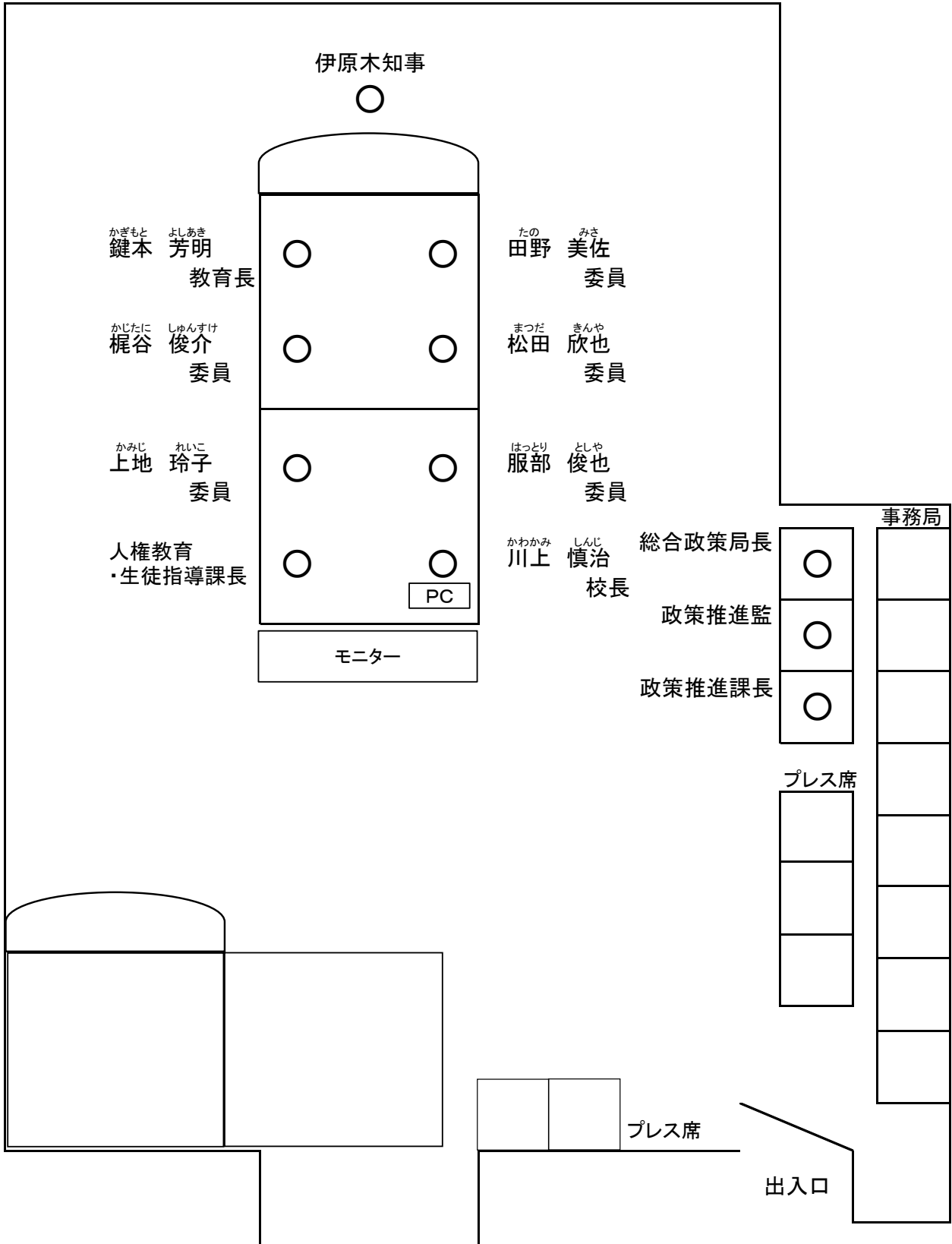
(敬称略)

役 職	氏 名
知 事	伊原木 隆 太
教 育 長	かぎ もと よし あき 鍵 本 芳 明
教 育 委 員	た の み さ 田 野 美 佐
教 育 委 員	かじ たに しゅん すけ 梶 谷 俊 介
教 育 委 員	まつ だ きん や 松 田 欣 也
教 育 委 員	かみ じ れい こ 上 地 玲 子
教 育 委 員	はっ とり とし や 服 部 俊 也
赤磐市立磐梨中学校長	かわ かみ しん じ 川 上 慎 治

令和5年度 第2回岡山県総合教育会議 配席図

日時: 令和6(2024)年1月19日(金)13:10~13:50

場所: 県庁3階第1会議室



長期欠席・不登校対策について

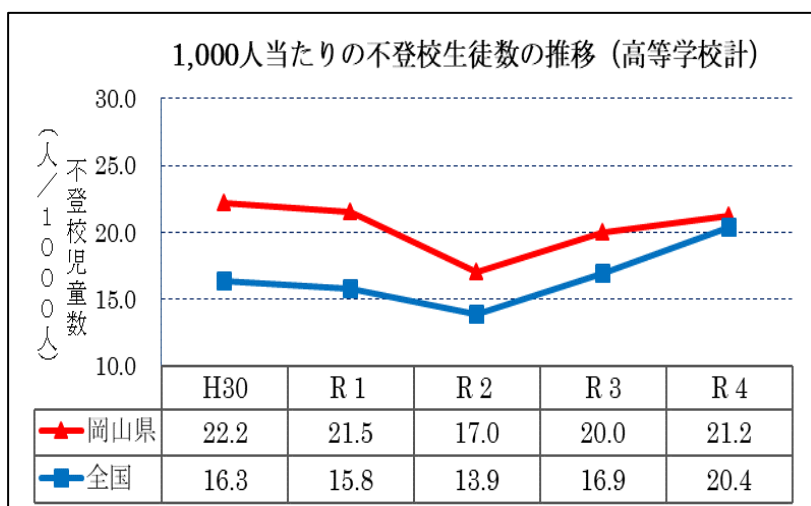
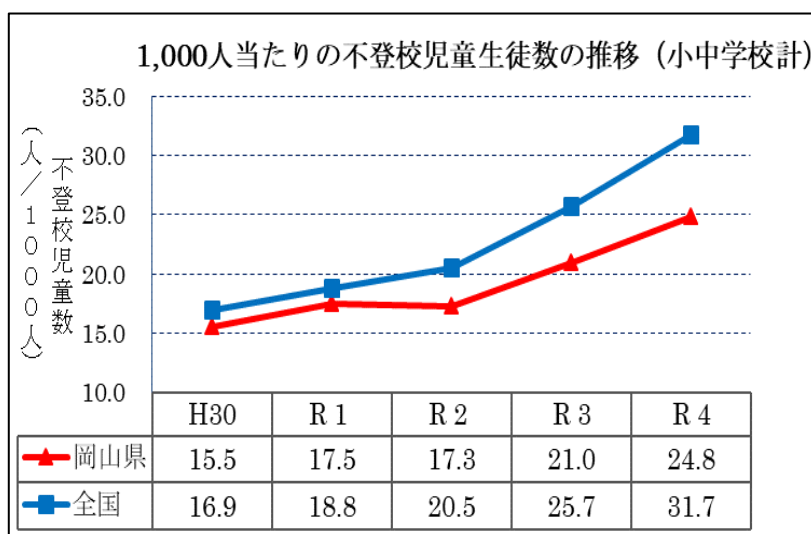
1 国の動向

文部科学省では、近年の不登校児童生徒の増加を受け、令和5年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)を取りまとめ、「不登校児童生徒全ての学びの場の確保」「小さなSOSを見逃さず、チーム学校で支援」等の方針が示された。また、10月に公表された、国の調査結果において、不登校児童生徒数等が過去最多となったことを受け、「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」を取りまとめ、COCOLOプランを前倒しして進めるとし、校内教育支援センターの設置をはじめとする、多様な学びの場の確保等の取組を改めて推進するよう求めている。

また、11月に「不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方」を改めて通知し、学校という場は、多くの人たちとの関わりの中で様々な体験や経験を通して、実社会に出て役立つ生きる力を養う場であり、学校自らが、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりに取り組み、学校において適切な指導や支援が受けられるよう求めている。

2 本県の状況

本県における1,000人当たりの不登校出現率は、小中学校で全国平均を下回り、高等学校においては、全国平均を上回っているものの、全国平均との差が小さくなるなど、一定の成果がみられる。しかしながら、不登校児童生徒数は、全ての校種において全国と同様に増加傾向にあり、憂慮すべき状況である。



3 来年度の方向性について

(1) 心の居場所推進プロジェクト（R元～）

- 指定校の推移（R5年12月末現在の予定学校数）＊小学校はR2年度より開始

校数	R元	R2	R3	R4	R5	R6(予定)
小学校		3校	5校	9校	11校	14校
中学校	3校	9校	11校	19校	33校	40校

- 不登校児童生徒等を支援する専属教員と市町村費支援員（中学校のみ）を配置し、専用の教室で一人一人のニーズに応じた多様な学びの場を確保。

(2) 小学校におけるシステム化推進事業（H26～）

- 登校支援員及び別室支援員の推移 ＊別室支援員はR4より開始

配置校数	R3(103校)	R4(102校)	R5(121校)
登校支援員配置校	103校	102校	97校
別室支援員配置校		20校	49校

- ＊登校支援員及び別室支援員を両方配置の学校があるため、配置校数が合わない。
- 県費支援員を配置し、登校しづらい児童の登校支援、教室へ入りづらい児童の別室（自立応援室）支援を行う。

※公立小中学校の自立応援室設置状況（令和4年度末） ※岡山市を除く

	県事業	独自運営	未設置
小学校数（割合）	29校(10%)	52校(18%)	206校(72%)
中学校数（割合）	19校(16%)	58校(50%)	39校(34%)

(3) 思春期サポート事業（H21～）

- 県立高等学校に心理の専門家等を派遣。派遣回数「R5：19回 → R6：24回」
- 心理の専門家等を月平均2回派遣し、不登校に悩む生徒やその保護者と継続的に関わり、不登校の解消に努める。また、校内研修等を充実させ、学校の不登校に関する対応力を向上させ未然防止に努める。

(4) 県立高校内に教育支援センター「My Place」を設置（新規）

- 県立高等学校(1校)内に、様々な理由で登校できていないが、高校進学を目指している中学生の「新たな居場所（岡山県教育支援センター My Place）」となる教育支援センターを設置。

(5) 不登校児童生徒「心の居場所」オンライン支援事業（新規）

- 人と関わることが困難な不登校児童生徒に対し、社会的自立に向けたきっかけの一つとして「新たな居場所（仮想空間：メタバース）」をオンライン上に整備。

(6) 1人1台端末を活用した心の健康観察調査研究事業（新規）

- 児童生徒のメンタルヘルスの悪化や小さなSOS等の変容を早期に把握し、早期に積極的に対応することで、不登校の未然防止に努める。

(7) 夢や目標の具現化に向けた自己存在感・充実感を感じられる学校・学級づくり

- 授業改善の推進・・・課題解決に向け、自ら学び方を選択し、「分かった」、「できた」が共感できる。
- 道徳・特別活動・総合の充実・・・多様な「人・もの・コト」と関わりながら、自分の良さや可能性に気づき、自己の生き方に繋げて考えることができる。
- 人権を尊重する環境づくり・・・自分が大切にされていると実感し、自他の大切さを認め合うことができる。

長期欠席・不登校対策

小・中・高等学校における不登校の出現割合（児童生徒1千人当たり）の全国平均との差
 （現況）R4：-5.1人 → （R6目標）全国平均値以下

対象

欠席が30日以上
 の長期欠席・不登校児童生徒

不登校児童生徒「心の居場所」オンライン支援事業 **新規**

○オンライン応援室

- ・ 社会へつながることが困難な不登校児童生徒に対し、オンライン上の居場所を確保



県立高校内に教育支援センター「My Place」を設置 **新規**

- ・ 進学意欲のある不登校の中学生を対象とする教育支援センターを県立高校1校に新たに設置



スクールカウンセラー配置事業

- ・ 全公立小・中・義務教育・中等教育学校へ配置

スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業

- ・ 有資格であるSSWを公立小・中・義務教育・中等教育・高校へ配置

思春期サポート事業

- ・ 高校における不登校等の支援充実のための教育相談体制の強化
 勤務日数の拡充 19日/年 → **24日/年**



心の居場所推進プロジェクト

【中学校】(33校 → 拡充)

【小学校】(11校 → 拡充)

- ・ 自立応援室(別室)の設置・運営に対する支援を行う推進員を配置

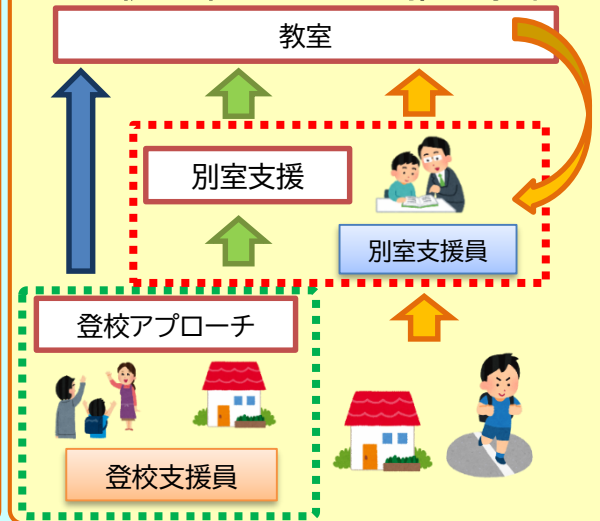


- ◆ 児童生徒と『つながり』を切らないためのICTを活用した不登校対策



(長期欠席・不登校対策スタンダード普及徹底事業)

小学校における長期欠席・不登校対策システム化推進事業



1人1台端末を活用した心の健康観察調査研究事業 **新規**

- ・ 児童生徒の心や体調の変化を早期に発見し、適切な支援につなげるために、心の健康観察アプリの効果的な活用方法を研究



『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード』に基づく対応の徹底

- 登校や外出の状況等に基づき、「状態0」から、「状態6」までの7段階に区分した状態評価の導入による児童生徒一人ひとりの状態に応じた対応
- 支援対象者リスト等による長期欠席・不登校に関する情報の一元化・可視化の推進
- 『スタンダード増補版』を活用した、別室指導やICTの活用による不登校対策を推進

夢や目標の具現化に向けた自己存在感・充実感を感じられる学校・学級づくり

- ◎ 授業改善の推進・・・課題解決に向け、自ら学び方を選択し「わかった」「できた」が実感できる
- ◎ 道徳・特別活動・総合の充実・・・多様な「人・もの・こと」と関わりながら自分のよさや可能性に気づき、自己の生き方につなげて考えることができる
- ◎ 人権を尊重する環境づくり・・・自分が大切にされていると実感し、自他の大切さを認め合うことができる

重点的支援

早期対応

未然防止

すべての児童生徒

磐梨中学校自立応援室 (ハッピールーム) 運営の成果と課題について



ハッピールームの様子



ハッピールームの様子



ハッピールームの様子



年度初めの職員会議で共通理解を図る！

資料

- ▶ 1 磐梨中学校自立応援室（ハッピールーム）に係る運営について
- ▶ 2 磐梨中学校自立応援室（ハッピールーム）利用の手引き
- ▶ 3 磐梨中学校自立応援室（ハッピールーム）の概要説明
- ▶ 4 ハッピールームでの過ごし方
- ▶ 5 先輩から後輩に伝えたいこと

運営について、全教職員に理解認知を広め、生徒・保護者に周知することで利用しやすい雰囲気と環境をつくる。

年度初めの職員会議で共通理解を図る！

運営について

磐梨中学校自立応援室（別室）『ハッピールーム』に係る運営について

1 基本方針

(1) 設置の目的

在籍学校での学習活動に参加できない（しにくい）生徒や、欠席が長期化している生徒に対して、学級担任・教科担任者・支援員（指導員）・SW・SCなどが協力して、保護者や専門機関との連携を図りながら、個別に合った指導や支援を組織的・計画的に行うことにより、校内での居場所の確保や社会的自立（学校・学習への適応性など）に向けた支援の拠り所となることを目的とする。

また、長期欠席や不登校の未然防止（新たな不登校を生まない）のためのも一掃継続所としての機能をもつ。個々の生徒の状況に応じて支援や対応を行う。

(2) 対象となる生徒

- 磐梨中学校自立応援室（別室）『ハッピールーム』が対象であると思われる生徒。（生徒指導連絡協議会（不登校対策委員会）で自立応援室（別室）利用が適切であると判断された生徒）
- 自立応援室（別室）の目的や考えを理解し、本人・保護者ともに利用を希望する生徒。

(3) 利用するための手順

○ 別組（利用の手順）参照

※ ただし、緊急避難・一時避難場所としての利用については、この限りではない。

○ その際は当該生徒の状況に応じて、校長（教頭）担任（学年主任）、特別支援教育コーディネーター・生徒指導担当等の協議・判断のもと利用を始め、あったら自立応援室（別室）利用についての説明（含むべき情報）が可能な場合は、自立応援室（別室）指導員宛のものと、事後に保護者へ報告・連絡することもある。

(4) 組織と運営

- 自立応援室（別室）指導員及び自立応援室（別室）支援員・特別支援教育コーディネーターが主に運営にあたり学級担任（学年主任）・養護教諭・SCSSWや外部の専門機関との連携を図る。
- 自立応援室（別室）の生徒利用状況は、生徒指導連絡協議会で報告等を行うこととする。
- 自立応援室（別室）の目的や運営と連携し、特別支援教育コーディネーターは定期的な連絡並びに生徒の利用状況（情報共有）を担任（学年主任）と連携しながら運営（支援）にあたることとする。
【資料】自立応援室及び別室の役割

(5) その他

- 自立応援室（別室）での支援は、家庭から学習環境までの心のエネルギーを消費する場所としての機能と、教室から一時避難場所としての機能を併せ持つ。
- 自立応援室（別室）利用の記録として、利用生徒が帰校入する「今日の足跡」や自立応援室（別室）利用者記録簿（指導員宛）を記録として残す。
- 自立応援室（別室）利用中は、本人の状況を踏まえながら個別・集団の取組を必要に応じて実施し、必要に応じて保護者に報告・連絡を行う。
- 授業中や授業外において、【資料】自立応援室及び別室の役割を参考に授業に連携させる。

利用の手引き（手順）

磐梨中学校自立応援室（ハッピールーム）利用の手順

自立応援室（ハッピールーム）は、教室復帰を目指す生徒・保護者の支援を目的とします。そのためには、教頭（主任・学年主任）、支援員（先生・保護者）との人間関係づくりが最も大切であると考えます。そのことから、以下の利用手順を原則として、支援員が共通理解のもと支援を行っていくこととします。

★自立応援室入室の手順

1 生徒が自立応援室を希望する。

2 自立応援室利用を本人・保護者に勧めるときに、自立応援室の概要・運営について、**自立応援室利用の手引き**を説明する。（本手順参照）

3 学年主任・担任・支援員・指導員、支援員等と本人の現状や思い、保護者の関わりや願いを確認し、学年としての見直しを話し合い、担任だけで抱えることのないようにしていく。

4 担任だけでは難しい場合は、担任以外でもできる支援について確認し、それ役割分担が明確にできるようにする。

5 学年主任・担任・支援員・指導員、自立応援室指導員などで報告する。

6 自立応援室を利用することが適切で、本人・保護者の支援につながるかどうか、**必要に応じて利用の仕方、留意点等の説明**を行い、**自立応援室利用の手引き**を説明し、本人・保護者の理解を得る。

7 学年主任・担任・（自立応援室指導員）と生徒・保護者の話し合いを行う。

8 【事前のチェック】（学校ができる支援とできない支援を確認すること）

9 ① 登校したいが、教室はまだ入れない、入りにくい状態の生徒の居場所として自立応援室を使用すること。
② 心のエネルギーを消費する場所としての自立応援室（一時的利用）は適切であること。
③ 時間帯の確保もあって、**教室復帰が前提**であることを意識させる。本人の状況を踏まえ、**必要に応じて利用の仕方**を話し合うこと。
④ 自分自身を原則として、ワーク等の学習準備は自分で行うこと。指導員からの**必要に応じての支援**がある状態であることを確認すること。
⑤ 必要に応じて利用すること。**利用が認められず退室を求められる**こと。
⑥ 自立応援室の利用は、**原則として14時から19時まで**とする。①～④の要約は、出席、遅刻・早退は生徒と担任、保護者等が伝えたい。

10 生徒指導連絡協議会（不登校対策委員会）で確認する。

11 自立応援室利用の**記録簿（記録）**を作成する。

12 入寮の決定を受け、本人・保護者に利用の具体的な説明（利用の仕方、タイミングなど）を行う。同時に、全教職員に連携し共通理解を図る。

13 正式入室、自立応援室登校（利用）の開始

※利用開始後も、定期的に自律や利用の状況を保護者・本人と確認することが望ましい。

年度初めの職員会議で共通理解を図る！

概要説明パンフ（表面）

磐梨中学校自立応援室（ハッピールーム）の概要説明

「ハッピールームってどんな場所？こんな場所！」

授業の目的
学校には行きたくないけど教室に入ることには少し不安がある。学校はできる限り自習室で過ごすことがしたい。一人ひとりの状況に応じて授業を再開するための準備や支援を行い、学校・学習復帰を促す社会的自立に向けた支援の場になることを目的としています。

磐梨中学校自立応援室（ハッピールーム）ってどんな場所
教室以外の校内で安心して過ごせる居場所
教室・社会とつながる場所

自分で決めて自習自習
心エネルギーを充電
を行う場所 する場所

ハッピールームの取り組み
【生徒への支援】
学校・学習復帰を目標とし、個々の発達段階や課題の状況に応じて、学校内外の連携を大切にしながら必要な支援を行う。
○基本的な生活習慣の改善への支援
・家庭での生活リズムや自立応援室での過ごし方などの情報は、担任（学年団）と共有し、生活学習改善への支援につなげる。
・個別や友達の相談・連携を促し、専門的な見立てを支援に反映する。
○自習自習の場を確保
・在籍学校で配布されているプリントや個々に合わせた学習課題を提供し、自習自習を支援する。
・授業や実習など、生徒の状況に応じて多様な活動内容を広げ継続につなげていく。
○課題への連携（人間関係づくり）への支援
・会話や作業、ゲームや創作活動などを通してコミュニケーション能力の育成を図る。
・生徒の状況に応じて、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れる。

概要説明パンフ（裏面）

ハッピールームの様子

自分で決めて自習自習を！

パーソナルで区切られた空間
（席の向きを調整できるように）

心のエネルギーを充電
生徒の作品
（心のエネルギー充電場所として）

主体的生活習慣
改善のために

学習予定や連絡用ボード
（学習の様子や連絡はこまめに）

集団活動への支援
（人間関係づくりスペース）

おむろの言葉での会話、ゲームや作業で
コミュニケーション

年度初めの職員会議で共通理解を図る！

過ごし方（例）

ハッピールームでの過ごし方

① 登校後、まず1日のスケジュールを決める。

・自立応援室でやることややりたいこと参加できる授業、帰りの予定時間、帰りの交通手段などを確認しよう。
・『今日の足跡』記入開始時刻を前日、今の気分（今の状態）などを記入しよう。

今日1日の見通しをもつてすごそう！

② 自習自習や読書、友達や支援員との会話、作業やできる活動を行う。

・少しでも興味のある内容から学習に取り組み時間をつくり、わからないことは聞いてみよう。
・人を楽しませる「行く行く言葉」やうらやま、内緒話しようしようしよう。
・友だちの活動に協力しよう。

みんなが安心して過ごせるように！

③ 給食時間にはできるだけ所属学年へ行って早退気分をしよう。

・体の元気が心の元気の源！
・学校に行くのが難しいときは必ず支援員に相談してください。

いつでも授業や教室に行くことができます！

④ 下校（退室）するときには、『今日の足跡』を記入して提出しよう。

目標

・日々のスケジュールを大切に
授業の目標へ向かっていこう。
・次の日の時間割や準備物も確認して準備しよう。
・早退する場合は、家に置いてから学校に連絡をしよう。

明日も元気に学校に来よう！

今日の足跡

別室での1日の過ごし方(1つの例)

今日の足跡

10月10日(水) 1年A組 名前 磐梨花子

登校(入校)時刻(8:55) 今年1日を楽しくすごそう！

時間	今日の気分や体調など (取り組みたいことなども書いてみよう)	活動の様子 (実際の内容や過ごし方などの記録)	支援 支援員
登校	元気な 車、その他()		
午前	気分は 上々(普通) 元気	1 読書をした 2 英語のワーク 3 社会のワーク 4 A組で手紙を渡した	横上 森谷 加藤 加藤 的場
午後	気分は 上々(普通) 元気	A組で食べた	
下校	気分は 上々(普通) 元気	5 体育(バド)を受けた 早退	横上
下校	元気な 車、その他()		

退校(退室)時刻(3:15)
★1日を振り返ってみよう(よかったこと、出来ておきたいことなど)

心：元気(普通) 元気
体：元気(普通) 元気

☆ 教員・支援員より
☆ その他・メモ

ハッピールーム 6つの工夫その①・②

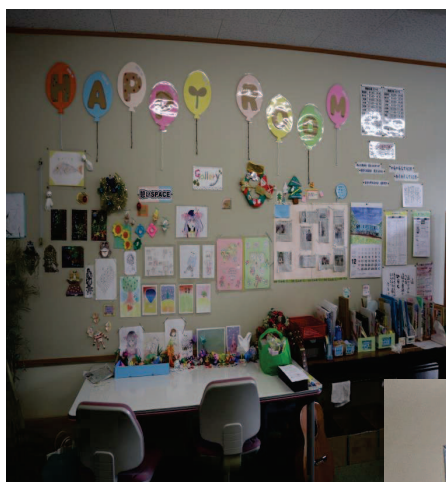
環境整備の工夫

- ☆車から降りて入りやすい場所に設置
- ☆他の生徒の動線から離れた場所
- ☆明るく清潔で空調も完備
- ☆利用する生徒にあわせて室内のレイアウトを変えていく
- ☆生徒作品を飾って温かい雰囲気！
- ☆生き物を飼ってみんなでお世話を！

担任・保護者と繋がる工夫

- ☆「今日の足跡」(活動の記録)を記入し担任・保護者と活動内容を共有
- ☆担任や空き教員には積極的に自立応援室に来てもらう

ハッピールームの様子



ハッピールーム 6つの工夫その③・④

教室復帰をうながす工夫


- ☆運営のルールの明確化により、なし崩し的な使用にならないようにする
- ☆使用のスパンを1年単位にして教室復帰のタイミングをつくる
- ☆コミュニケーション能力を高めるためのふれあいを積極的にもつ
- ☆行事参加を促し他生徒とのつながりを保つようにする

目標（進路）を意識させる工夫

- ☆全日制や通信制の学校から先生に来てもらい説明会を開催
- ☆「目標設定シート」を活用して短期目標で成功体験を積み上げる
- ☆各種高校のパンフレットを置く
- ☆自立応援室を利用していた先輩からのアドバイスを掲示する

目標設定シート






一歩踏み出すための目標シート

月 日 ()年()組()


別室利用を希望するあなたへ
 支援員は、みなさんが目標に向かって進んでいくことを全力で支援します！そこで、これからのことを一緒に考えてみましょう！

私の最終目標は



目標達成に向けてこれからの自分の姿を描いてみよう！

()までに _____




↓
こうなるためには！？

()までに _____



↓
そこで、今できることは！？

**振り返りをしながら、少しずつ進んで行こうよ！
 上手くいかなくても気にしない！失敗は成長の第一歩だよ！**



高校説明会の様子



ハッピールーム 6つの工夫その⑤・⑥

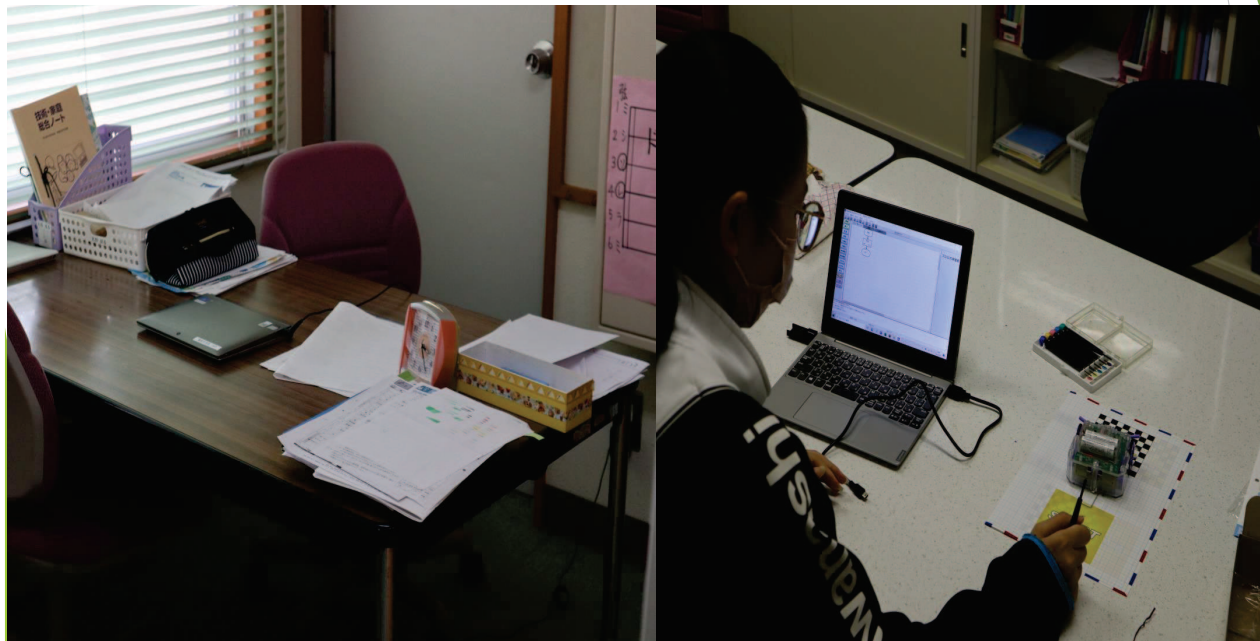
学びをうながす工夫

- ☆登校後の過ごし方を自分で決めて達成感が感じられるようにする
- ☆タブレットを使って自学ができるようにする
- ☆空き時間には教科担の先生に来室してもらう
- ☆自立応援室担当教員による学習指導支援も可能！

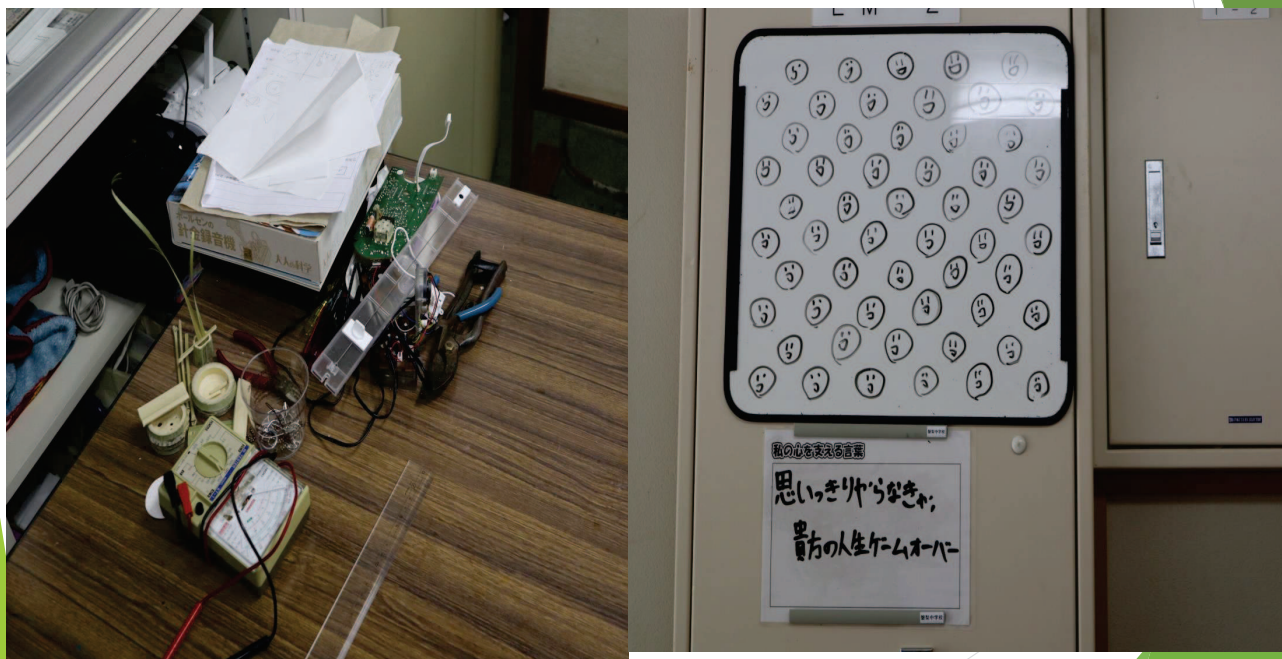
支援員の関わり方の工夫

- ☆全支援員（4名）が関わる
 - ⇒生徒との人間関係をより広げることができる
 - ⇒支援員の様々な個性に触れることで人間性の成長につながる
- ☆支援員の連絡会を定期的に持つ
 - ⇒生徒の情報共有と同一歩調での支援が行える
 - ⇒支援員相互の技能向上や不安感の軽減につながる
- ☆勤務時間を調節して午前、午後どちらでも自立応援室が使用できるようにする
 - ⇒生徒の登校しやすい時間帯に対応している

ハッピールームの様子



ハッピールームの様子



ハッピールームのあゆみ

- ▶ 1 令和3年度の取組 【開設初年度】
- ▶ ① 利用生徒（8名）
- ▶ ② 取組内容
 - ▶ ・ハッピールームの運営開始、掲示物などの環境整備
 - ▶ ・「今日の足跡」(利用の記録)作成と活用
 - ▶ ・基本的に自学の場所として運営、作業やイベント活動を実施
- ▶ ③ 成果と課題
 - ▶ ・利用者8名の内、**2名が高校進学** **4名が教室復帰** 2名が継続
 - ▶ ・環境整備や支援員の情報共有、教職員への周知・認知はできてきた。
 - ▶ ・支援員のみで運営する場合、学習に対する取り組みがしにくいため作業や活動が中心となり生徒の学習への意欲が著しく低下する傾向がある。
 - ▶ ・生徒と支援員との人間関係はできてきたが担任との関係がやや希薄になる。
 - ▶ ・居場所としての機能は果たせている。
 - ▶ ・支援員の勤務時間の長短により、対応が難しい時間帯がある。

ハッピールームのあゆみ

- ▶ 2 令和4年度の取組 【開設2年目】
- ▶ ① 利用生徒（12名）
- ▶ ② 取組内容
 - ▶ ・**支援員の情報交換を定例化**した。午後の時間帯の支援を充実できた。
 - ▶ ・個室の設定、めだかの水槽設置、時間管理用ホワイトボードなど**環境の充実**
 - ▶ ・高校の説明会、箱庭実践教室など**研修の実施**
 - ▶ ・自学を中心とするが、**簡易な学習指導**も行う⇒高校進学の一助
 - ▶ ・「**短期・長期の目標**」シートの作成活用
- ▶ ③ 成果と課題
 - ▶ ・利用者12名の内、**3名が県立高** **5名が私立高** 進学
 - ▶ **1名が教室復帰** 3名が継続
 - ▶ ・校内の居場所として生徒に認知・利用され、**完全不登校の生徒がいなくなった**。
 - ▶ ・利用生徒が増えるにつれて、居場所としての機能にやや支障が出てきた。
 - ▶ ・生徒の居場所であるとともに、学びの場所としても機能できた。

ハッピールームのあゆみ

- ▶ 3 令和5年度の取組 【開設3年目：本年度】
 - ▶ ① 利用生徒（4月時点 3名⇒7月時点 5名⇒9月時点 6名）
▶ 3年生男子、女子 各1名 2年生女子 2名 1年生女子2名
 - ▶ ② 取組内容
 - ▶ ・それぞれの生徒の特性やニーズに対応した自立応援室にしていく。
⇒パーソナルスペースの効果的活用
 - ▶ ・担任（クラス・生徒）とのつながりを強くして、教室復帰をめざす。
⇒担任や生徒の来室による働きかけを行う。
 - ▶ ・短期、長期の目標設定を行いながら、進路を見据えた学習支援を行う。
⇒目標設定シートの活用
 - ▶ ・新たな不登校を生まないため、生徒への支援活動を積極的に行う。
- ▶ 4 その他
 - ▶ ・支援員の研修を実施する。

ハッピールーム 運営にあたっての所感

- 運営は、フレキシブルな対応を！
⇒生徒の実態は様々。実態に応じて柔軟に。

ハッピールームの様子

1年前



現在



ハッピールーム 運営にあたっての所感

○運営は、フレキシブルな対応を！

⇒生徒の実態は様々。実態に応じて柔軟に。

○自己選択、自己決定を！

⇒生徒自身で1日をコーディネートすれば、学校での生活が充実

※通常学級での個別最適な学びを充実させることが今後の課題である。

先輩から後輩に伝えたいこと!

- ▶ 1 磐梨中学校ハッピールームを使ってきて、今、思っていること。
 - ▶ ・割と安心できていたが、もっと学校に行きやすくして欲しいかも?でも、先生も優しく話できて楽しかった!
 - ▶ ・息抜きできる場所。しんどい時に助けてくれるところ。
 - ▶ ・ハッピールームは温かくて楽しい場所だと思っています。そして、それぞれが色々な事情をかかえていることを学べる場所で、きずのなめあいというかつらいことを共有して、一緒に課題を解決していけるそんな支え合いができて良かったと思います。
 - ▶ ・よかった。ハッピールームのおかげで学校に来れるようになった。
 - ▶ ・教室よりかは居心地がいい。好きな時間に来れるから学校自体に来やすい。
 - ▶ ・リラックスできる空間だと思います。自分のペースで勉強ができる。



先輩から後輩に伝えたいこと!

- ▶ 2 磐梨中学校ハッピールームを使う後輩に向けて、アドバイスしたいこと。
 - ▶ ・来てすぐに、今日どうするか決める。
 - ▶ ・A E Yの支援学級のみみんなも使ってね!!そこが安心なら、いてもいいんだよ!
 - ▶ ・つらくなったら迷わず行ってもいいところ。先生たちに自分のつらいこと、しんどいことを話してみてもいいよ!
 - ▶ ・ダメなときは、ゆっくり休んで下さい。行けそうなときは、自分のペースでもいいので頑張ってください。また、つらいときは先生や友だちや家族などの話しやすい人に話して、つらいことを半分こしてください。



ご清聴ありがとうございました。

